

ゴードン恵美「レターカッティング入門ワークショップ」2023

【初参加コース】

■ コースの概要

石に手彫りで字を彫るレターカッティング“Letter Cutting”（またはレターカービング“Letter Carving”とも呼ばれる）は現在も英国国内だけではなく、ヨーロッパの国々で続けられている伝統工芸です。この入門コースでは、主にヴィーカット“V-Cut”と呼ばれる彫り方で文字を彫る技術を学びます。このヴィーカットは、ローマ帝国時代に既にその手法が確立され、当時の碑石に使われていたローマンキャピタルの文字のほとんどはこの彫り方で彫られています。

イギリスではエドワード・ジョンストン（1872 - 1944）の教え子だったエリック・ギル（1882 - 1940）が、そのローマ時代の伝統的手法を彼の石碑の作品に多用し、彼のワークショップ（工房）で培われたレターカッティングの精神、技術、そして教法は、彼の弟子達を通じて今なお多くの職人の中に息づいています。この入門コースはそのギルの弟子達の1人であったデービッド・キンダスリー（1915 - 1995）のワークショップ内で教えられていた手法で進められます。石の彫り方だけでなく、道具や石の取り扱い方などにも重点を置く予定です。

また、コース内では文字のレターフォーム、デザイン等を参加者同士で検討し合うクリティーク（Critique）と呼ばれるローハンプトン大学で採用されていた教法を導入しています。生徒それぞれの作品をさまざまな側面から観察、そして話し合う事で文字とデザインの向上を目指すとともに、作品作りにおける生徒の自発性を伸ばしていきます。

個人のペースに合わせてコースは進められますので、石を彫る作業までには至らないこともありますので、あらかじめご了承ください。

■ コースの目的

石の彫り方だけでなく、道具や石の取り扱い方にも重点を置き、職人としての心構えを体感していただきます。

■ 今回使用する石の大きさ（縦×横×厚さ）

150 x 150 x 20 mm または、100 x 225 x 20 mm

★ 受講確定後、8月31日までにご希望の石のサイズをワークショップ担当（fujiwara@j-laf.org ◎を@に変換）へご連絡ください。

■ 参加資格

ローマンキャピタルをペンもしくは平筆を使って書いた事がある人。

■ 当日までの宿題

ワークショップで彫りたい石のサイズを上記のサイズから選びそのサイズに合わせてローマンキャピタルで1単語（例えば“ORIENT”など）を上下左右のマージンを考えながらレイアウトペーパーに書いて来てください。だいたいメインステムの幅が約5 mm ぐらいで、エックスハイトがその幅の8から10個分の間の文字を目安としてください。もちろん、その他の大きさの字や数字でもかまいません。

■ 当日の持ち物

キッチンペーパー1ロール、カッターナイフ、カラダッシュ（CARAN d ACHE）社の水彩用色鉛筆の白を2本（カラダッシュ社のものが手に入らない場合は日本製の水彩用鉛筆でもかまいません）、HBの鉛筆2本、定規、三角定規、白または黄色のカーボンペーパー

(文字を石に写すため)、エアークッションまたはプチプチの包装用ビニール(石を保護するため) 100 x 100 cm を 2 枚、マスキングテープ、古布(手ぬぐいなど)、カッティングマット

鑿とダミーと呼ばれるハンマー、そして鑿を研ぐための砥石は貸し出しいたしますが、ワークショップ終了後にお持ち帰りになりたい方には、実費にてお持ち帰りいただけます。

■ 参考

J-LAF サイト内に、過去のレターカッティング WS レポートが載っています。こちらもどうぞご覧ください。

2010 年 <http://j-laf.org/special/940.html>

2013 年 <http://j-laf.org/special/600.html>

2019 年 <http://j-laf.org/event/6232.html>